

東御市立北御牧中学校



(1)学級数 8クラス

(2)生徒数 男子67名 女子75名 142名

(3)職員数 21名

(4)学校紹介

http://www.city.tomi.nagano.jp/manabu/school/shisetsu_jh_kitamimaki.html

本校は、東御市の南部北御牧地区にあり、鹿曲川が区内を南北に貫流し、その東西に2つの台地が蝶が羽を広げたように広がっている。東は御牧原台地、西は八重原台地といい、小諸市、旧浅科村、旧望月町、立科町、旧丸子町と隣接している。北御牧小・中学校とも、鹿曲川流域の窪地の大日向地区にあり、多くの生徒は高低差が150mもある山道を徒歩通学している。平成16年に東部町と北御牧村が合併して東御市立北御牧中学とになり、5年目が過ぎようとしている。

昭和51年4月に設定した学校目標が「求・健・正」であり、「求」

○自ら課題を見つけ、その解決へ向けて粘り強く取り組める生徒

○場に応じた声で、積極的に自らの考えを発表できる生徒

○他の考えや情報に学び、自己の視野を広められる生徒

「健」

○健康の大切さを知り、望ましい生活習慣が築ける生徒

○清掃活動や地域の奉仕活動に、他と協調しながら取り組める生徒

○部活動や諸行事に進んで参加し、集団の向上に努められる生徒

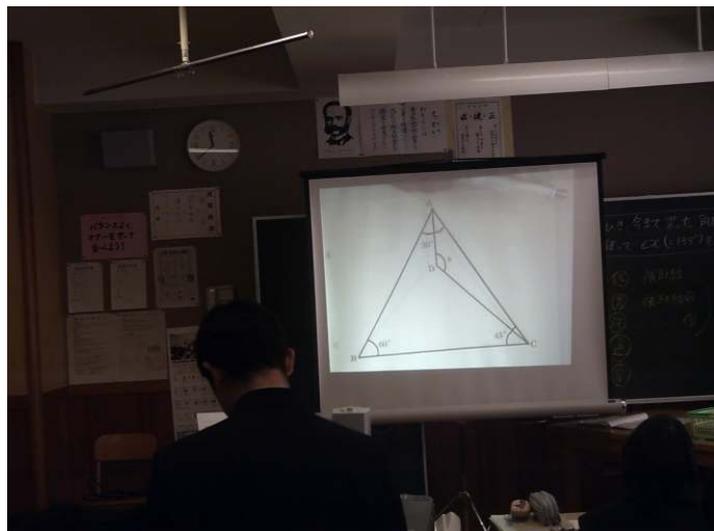
「正」

○正しい規範意識と人権感覚を持ち、自らを律していける生徒

○自然や美しいものに心が向き、お互いの感性を共有できる生徒

○将来の目標を持ちながら、集団や社会生活の向上に寄与できる生徒

の9つの「望む生徒の姿」具現を目指し、生徒と共に日々の諸活動に取り組んでいる。



(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、前記の9つの項目の具現化を目指し、全校研究テーマを「生徒が自ら課題を見つけ、友と関わりながら粘り強く追究し、自己を振り返る学習はどうあったらよいか」とした。本校の特徴としては、小学校から続く少人数の集団で、人間関係の深さがあり互いに協力できる反面、周囲に気を遣い自分を主張しにくく、互いに批正し合う意欲が薄れてしまい、集団としての活力が高まらない場合がある。そこで、特に前記の2つ目の項目から、“積極的に自らの考

えを出せる発表力を育成する”ことで、改めて友の良さに学び、互いの向上を目指すことができるとして、サブテーマは「自分の考えや思いを伸び伸びと表現する力の育成を通して」とした。

公開を予定している数学科では、大会テーマの中の“自ら考える力”と、本校の“発表力の育成”に焦点を当て、「生徒一人ひとりが、課題を解決していく過程における視聴覚教材の効果的な活用はどうあったらよいか」と研究テーマを設定した。具体的には、①既習事項とのつながりを意識した単元展開②既習事項を利用し、自分なりの予想や解決の見通しが持てる場面設定③互いの考えを出し合い、それぞれの考えの良さを認め合う場の確保、の3点を中心に研究を進めている。

(6) 日常的な活用

○システムの概要

現在、コンピュータ室にデスクトップパソコン43台、職員専用ノートパソコン12台、職員室に職員共用のデスクトップパソコン4台、生徒が使用できるノートパソコン10台が配置されている。総合的な学習での「調べ学習」や発表のためのプレゼン資料作成に活用している。

○ネットワーク環境

職員室周辺は、有線・無線LANで職員室メインサーバーに職員のパソコンがつながり、データの共有をしている。職員の情報漏洩がないよう、コンピュータ室のパソコンとはつながらないようになっている。また、各教室に有線LAN端末があるが、生徒の使用は禁止している。

○プロジェクター、実物投影機

プロジェクター3台、リアプロ1台、実物投影機1台が配置されている。実物投影機は理科室に設置してあり、利用している。生徒集会や文化祭などで、プロジェクターとパソコンをつなげ、プレゼンテーションソフトで内容を組み発表している。リアプロは音楽ホールに配置し、授業内での鑑賞に利用している。

○デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

学校用デジタルカメラは10台あり、教材研究や行事の記録に活用している。生徒にも許可制により利用させている。また、生徒会の放送委員会の企画で、各クラスのPR番組、行事の記録にデジタルビデオカメラを使い、全校放送に活用している。

○スキャナー、大型ポスタープリンター

スキャナー1台、大型ポスタープリンター白黒1台、カラー1台が職員室、事務室に配置されている。主に職員の学習資料作成、行事日程の掲示に利用している。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

数学の研究グループでは、2年生の単元「図形の調べ方」について研究をしてきた。視覚的に追究しやすい図形分野において、視聴覚機器で図を拡大し多数が一斉に見ることができる特性を生かして問題場面の提示をすることは、生徒の意欲を喚起することが分かった。また、自分の考えを図を絡めて発表することは、言葉だけの発表とは違い、発表者の精神的負担を軽減し、また発表力を補うことでもあり、聞く側の理解度も高めることが分かった。

課題としては、プロジェクターを使用したプレゼンテーションソフトでの問題提示の仕方をより効果的にするための問題場面の研究である。また、実物投影機を利用した提示・発表の工夫、さらに個人追究や全体追究の中で、どう友と関わらせ理解を深めるかを研究したい。

